

甲斐市立敷島小学校 自己評価書

令和6年2月7日（水）作成

校長 「 加藤 忍 」 記述者 職名（教頭）「 武田 真弓 」

学校教育目標 「 知・徳・体の調和のとれた 人間性豊かな子どもの育成 」

学校経営方針

教育諸法の精神を基に、山梨県及び甲斐市の教育方針に則り、変化の激しいこれからの社会を生き抜くために、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の知・徳・体をバランスよく育てることが大切である。そのために、本校職員は家庭・地域社会と連携し、教育者としての使命感をもち、自己研鑽に励むとともに、一致協力して本校教育目標の具現化に努める。

1 全体評価

(1) 教職員自己評価について

今年度の教職員自己評価も、全ての項目で肯定的な回答が非常に高い値となっている。社会の要請や保護者・児童からの期待に応えるべく、教職員が連携・協働して山積する課題に取り組んできた意欲と努力、成果への実感がうかがえる結果となった。

(2) 小学生アンケートについて

「学校は楽しいですか」の肯定的な回答が昨年を上回る結果となり、児童の学校生活に対する満足度が高かった。他の質問項目からも、多くの児童が友だちや先生と良好な関係を結び、高い規範意識をもって学校生活を送っていると言える。一方、小人数ではあるが否定的な評価もある。このことを見過ごすことなく、適切な指導を行う必要がある。

(3) 保護者アンケートについて

「子どもにとって学校は楽しいところだ」と非常に多くの保護者が肯定的に回答している。一方、今年度半ばより感染症による以前のような来校制限はなくなってきたものの、学校の具体的な取組や児童の姿についての項目で「分からない」と回答した保護者もいた。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況
・全ての項目において、肯定的な回答が100%であった。学校教育目標をもとに教育活動がなされ、一定の成果を得ていると全教職員が実感している結果であると考えられる。
・「PDCAサイクルを生かした教育活動を行っている」の設問では、昨年に比べA回答が減少した。

改善策
・これまで通り、学校経営方針に則った教育活動がなされるように職員会議・学年会議・終礼等を通じて職員の意識の方向をそろえ、組織的・協働的に職務にあたるようにする。
・研修などを通してカリキュラムマネジメントについて職員の理解を深める。また、学校教育目標を達成するために教育活動における振り返りを確実にを行い、改善点を洗い出す。前年のやり方にとらわれず、円滑な実施につながるような改善策を積極的に取り入れる。

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況
・7項目中5項目で肯定的な回答が100%となった。この結果から、本校の教職員は、主体的に学校運営に関わっていると言える。特に「他の教職員と連携して協働体制で教育活動にあたっている」「職務上報告・連絡・相談・確認を行っている」については昨年度よりA回答が増えた。職員同士が風通しのよい職場でたくさんの対話を重ね、信頼関係の中で職務にあたっている様子がうかがえる。

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理マニュアルへの理解」では、B回答が多い結果となった。しかし、教職員が「健康・安全を守る対策を適切に行っている」と肯定的に回答した割合、保護者が「学校は安全で安心できる学校作りに努めている」と回答した割合ともに高く、日常の安全指導や対策の成果は表れていると考える。 ・「働き方改革」については、数年来取り組んできた業務改善等が効果を上げ始め、今年度は昨年度より教職員の時間外勤務時間が短縮されている。今後も効率のよい働き方を意識し、習慣化できるようにしていきたい。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・異常気象や自然災害、食物アレルギーや感染症など、児童を取り巻く環境は厳しさを増している。児童の命を守るために、危機管理マニュアルの更なる見直しと充実を図る必要がある。教職員には、訓練や日頃の対策を通してマニュアルを周知し、学校事故を防ぐ努力を継続する。また、地域や保護者にも協力を仰ぎ、児童の安全を守るよう努める。 ・今年度は、学納金の口座振替や多機能安心メールの導入により、教職員の負担が軽減された。今後は、メール機能を活用したペーパーレス化への取組を進め、学習ソフトの導入も検討する。児童と向き合う時間の確保、教職員のウェルビーイングの充実に努める。
Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関する設問では、全ての項目で肯定的な回答の割合が90%を上回っている。学びの意欲を喚起する授業や個に配慮した授業を行い、よい学習習慣をつける指導に意識して取り組んできている結果であると考え。特に「協働的な学びを取り入れた授業を行っている」と肯定的に回答した教職員が増え、対話的で活動的な授業が盛んに行われている様子が分かる。反面、「ICTを効果的に活用した授業を行っている」と肯定的に回答した教員は僅かではあるが昨年度より少なくなった。 ・小学生アンケートでは、「先生はよく勉強を教えてくれる」と回答した児童が98%を超えた。一人一人に向き合った指導が行われていることが分かる。「授業が楽しい」「宿題を忘れずにする」と回答した児童も90%を超え、前向きに学習に取り組んでいる様子が見える。一方、経年変化を見ると「学校以外で目標時間の学習をする」と肯定的に回答した児童の割合が少しずつ減っている。「外国語が好き」と答えた児童も減少傾向にある。 ・保護者アンケートでは、「学校は熱心に授業に取り組んでいる」の肯定的な回答の割合が90%に近く、「お子さんは授業の内容が分かっている」という設問とともに高評価となっている。また、「宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか」という設問の肯定的な回答が昨年より増えた。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での制限がなくなり、グループ学習等の対話的で協働的な学習が増えたことで、児童も楽しく学習をすることができている。今後も友だちとともに考え学ぶ楽しさを実感させ、個別的な学習とのバランスをとりながら児童の意欲を喚起していきたい。ICTの効果的な活用については、甲斐市ICT推進委員会で示された先進事例や校内のICTをリードする教員の実践を参考にして教員同士学び合い、効果的な活用方法を見いだしていく。 ・児童の「学習目標時間」については、「自主学習をしている」と回答した保護者が増えていることから、時間だけで判断することはできないのではないだろうかと思われる。タブレットを用いて学習している児童も多く、効率よく短時間で学習している場合もある。自主学習の内容も含めて見ていく必要があると感じる。自主学習取り組みカード等を活用して内容を見取り、個々に合ったアドバイスを行うようにする。自主学習は児童が主体的に学習に取り組む態度を養うために役立つことから、継続して指導を行っていく。 ・「外国語の学習」の肯定的回答の減少については、教科化により内容が増えたり難しくなったりしたこと、評価を伴う学習になったことが影響していると考えられる。苦手意識を生まないようにスモールステップで学習をする、英語の表現に親しみ自信を付けさせるために学習者用デジタル教科書を活用して個別の学習時間を確保するなどし、意欲の向上を図る。また、ALTと連携を図り、魅力ある授業づくりを行う。

IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の自己評価では、生徒指導に関する全ての項目で肯定的な回答が95%を超えた。児童が学校で安心して過ごせる環境をつくるため全教職員が努力していることが分かる。 ・児童アンケートでは「委員会活動」や「清掃」をしっかりし、「きまりを守って」「人が困っているときには助ける」児童が95%以上となっている。児童の規範意識は高く、真面目に学校生活に取り組もうとしている姿が見える。 ・「困ったことがあったとき相談できる先生がいる」と肯定的に回答した児童が80%、保護者アンケートでは70%であった。「いない」「わからない」という回答もあった。 ・「将来の夢や希望を持っている」と肯定的に回答した児童が約86%であった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも「いじめ防止基本方針」や「敷島小のきまり」に則り、児童のがんばりを認めながら生徒指導を行っていく。児童は成長の過程にあるため、失敗や問題行動も起きると予想される。日常的な観察や児童との対話を通して問題の早期発見に努める。生徒指導を行う上では、保護者と連携することが大切である。各担任を中心に保護者と丁寧に関わりながら意思疎通を図り、信頼関係を築きながら同一歩調で指導にあたり児童の成長を促していきたい。また、問題や課題の内容に合わせてSCや関係機関との連携を図り、組織的に指導していく。 ・児童会活動や委員会活動を通して、児童が主体となって自分たちの学校をよくしていこうとする意欲を高められるように指導していく。 ・キャリアパスポートの取組や特別な教科道德の学習を通して、児童が自己を見つめ自分の個性や長所を見つけられるよう、また、困難に直面したときにしなやかな心を持って対処できるよう指導していく。
V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員自己評価では、5項目のうち3項目で肯定的な回答が100%、2項目で約90%と高い割合となっている。このことから、本校教職員は、地域や保護者との連携に努めようという高い意識を持って教育活動を行っていると言える。 ・保護者アンケートでは、「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている」という設問の肯定的な回答が昨年度より増え92%であった。「学校・学年だよりやHPなどから教育活動の様子を知ることができる」と肯定的に回答した保護者も84%に達し、学校の様子が保護者によく伝わっていると言える。「保護者地域の声に耳を傾けている」と肯定的に回答した保護者が75%いたが、分からないと回答した保護者も10%程いた。 ・「PTA活動に参加している」と肯定的に回答した保護者は70%と昨年度と同等の結果であった。これは、コロナ禍以前よりも低い割合である。今年度は「地域の行事に参加している」と肯定的に回答した児童が増え、コロナ禍の収束により社会活動が次第にもとにもどりつつあることが感じられる。しかし、児童のゆとりある学校生活や教職員の働き方改革を実現するためには、全てをもとにもどすのではなく、限られた時間の中でどのような活動を行っていくかをしっかり協議し、効果的な活動を仕組んでいく必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は2学期より新しいメールシステムを導入し、発信できる情報が増えた。HPの更新も各学年で機会を捉えて行っている。今後も学校の様子を積極的に発信し、児童の活動や学校の取組・考えを地域・保護者の皆さんに広く知っていただけるよう努める。 ・今年度は年度当初にPTA専門部会を開催し、活動計画等を話し合った。学校評議員の授業参観や評価委員会の開催も行うことができた。今後もこのような場で保護者や地域、関係者から意見を聞き、教育活動に生かしていく。 ・よい教育活動は、保護者や地域住民の方々との信頼関係の上に成り立つ。日頃からコミュニケーションを大切にして、意見や要望には誠意をもって対応する。

VI 学校の特色に関して	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・泉の時間の活用, 学校行事への取組など, 学校の特色に関する教職員自己評価は肯定的な回答がどの項目も 95%以上であった。様々な活動を通して児童の心や体が育まれ, 教育目標「やさしく・かしこく・すこやかに」に近づいていることが感じられる。 ・家庭での読書時間は1日30分ほどと答えた児童が多かった。これまで読書活動に親しむ児童の育成を図ってきたが, 今年度はそれと並行して校内研究で NIE に取り組んだ。新聞を読むことを通して社会の様々な話題に接し, 自分なりの意見を持つことができるように指導した。それにより児童が多様な文章にふれる機会を増やすことができた。しかし, 教職員自己評価では B 回答が最も多く, 更に指導していきたいという教職員の気持ちが表れている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も学校行事への取組を大切にする。行事を通して教職員と児童, 児童相互の絆を深め, 保護者にも行事を通して成長する姿を見てもらえるようにする。校長の指導の下, 目的や目標を明確にし, 児童の学校生活に対する意欲につながるような取組を行っていく。 ・児童は日頃, 図書室を利用する時間をとても楽しみにしており, たくさんの本を借りている。今年度は新聞を読む, それを通して学ぶという新しい体験もした。その体験は必ず児童の力となっている。今後も読書活動を中心に読む力を養う活動を大切にする。
VII 創甲斐教育について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員自己評価では, どの設問も肯定的な意見が 90%を超えた。「創甲斐教育」について共通理解が図られ, 教育活動が行われている。 ・国語力の向上に関する項目の A 回答が一番高い結果となっている。「国語の授業内容がわかる」と肯定的に回答している児童は約 95%にのぼり, 泉の時間の国語モジュールや各教科での言語活動の取組が効果をもたらしていると言える。 ・「手洗い・うがい・水分補給などをして健康に気を付けています」と肯定的に回答した児童は 96%を超え, 自分で自分の健康を守る意識が定着している様子がうかがえる。就寝時刻やスマホ・ゲームの使用時間については, 遅く長くなっている児童が一定数いることが分かる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・創甲斐教育については, その意義や内容を確認しながら, 今後も全教職員で取り組んでいく。日常生活の中での実践に加え, 学力調査や体力・運動習慣調査などを通して児童の実態を把握し, 改善点を明らかにしながら組織的・計画的に取り組んで行くことが大切である。 ・児童の学力の向上や健康の維持増進には, 家庭の協力が欠かせない。創甲斐教育の趣旨や目指す児童像, 具体的取組を家庭にも伝え, 協力を得ながら推進していきたい。
3 まとめ	
<p>〈成果〉 ○<u>教職員自己評価, 保護者アンケート, 小学生アンケートとも, 全体的に肯定的に評価されていた。このことから, 今年度は, 学校教育目標を達成することができたのではないかと考える。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は, 管理職や他の教職員とコミュニケーションをとりながら協働して教育活動を行っている。 ・児童は学校が楽しいと感じ, 学習や学校生活に前向きに取り組んでいる。 ・保護者・地域と良好な関係を築き, 連携して目指す児童像に向けた教育活動が推進されている。 <p>〈課題〉 ○<u>このアンケートに表れた評価の一つ一つを真摯に受け止め, さらに改善を重ね, 本校の教育を向上させていく。保護者・地域と連携を図りながら, 「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成」に全職員一丸となって取り組む。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の命を守ることを最優先として, 引き続き安全・安心な学校をめざし対策を重ねる。 ・一人一台端末を活用し, だれ一人取り残さない個別最適な学びの実現に向けて指導を行う。 ・学校の願いや情報を発信するとともに, 地域や保護者の願いを受け止め, 社会に開かれた教育課程の実現をめざす。 	